

視点・論点

12月定例会

12月定例会において、各常任委員会及び特別委員会で議論となったものを各委員長がまとめたものです。

総務委員会

付託を受けた議案は全部で十件です。補正予算(第四号)で提案された債務負担行為は、契約形態を随意契約から指名競争入札に変更するもので、エレベーターの保守点検業務等には支障は及ぼさないのかなどの意見が出された。また指名業者選定に当たってはできる限り、地元業者の育成に配慮するようにとの意見も出された。夏休みの期間中いたずらと思われる行為で水道料金の補正が必要となったことについて、学校管理・警備態勢の強化など強く要望した。「春日市職員の給与に関する条例の一部改正」については人事院勧告に伴う改正です。本来人事院勧告制度は公務員の団体行動権の代償措置として設けられたものであるが、今回の減額措置は不利益不遡及の原則を無視しての勧告であり、原則的には不適當などの意見が出されたが、労使合意の結果を重く受け止め全員が賛成した。

文教委員会

委員会に付託された三議案について審査を行いました。教育委員会委員については、全員が片野博氏を委員に任命することについて同意しました。人権擁護委員の候補者の推薦についても白水欣哉氏

の推薦に全員が同意しています。春日市地区公民館等設置条例の一部を改正する条例の制定は、白水ヶ丘地区公民館の新設と、町名地番整備に伴う白水池コミュニティセンターの位置の表示を変更するために提案されたものであり、全員が可決することに賛成しています。審査の過程では、「施設の名称が地区公民館、共同利用施設、コミュニティセンターなど四つになっっているが統一した名称にすべきではないか」「公設民営であるのに使用料金の格差がある。是正すべきではないか」などの意見が出され、執行部より「いずれも今後の重要な課題として受け止め検討したい」という説明を受けております。

厚生委員会

九月議会で継続となっていた決算関係議案三件及び十二月定例会において付託された議案七件について慎重に審査しすべて可決した。七十一号議案「平成十三年度春日市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定」は、歳出決算額は約六十六億円、単年度収支額は約二億四千万円の黒字決算だが繰越金と一般会計からの繰入金を除けば一億三千四百八十八万円の赤字決算である。第八十八号議案「春日市乳幼児医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について」

は、三歳未満児の入院と通院の自己負担相当額を助成する現行制度を、入院助成について就学前まで拡充するものである。入院・通院とも四歳未満児に引き上げて助成することを求めてきた委員会では、「本案は子育て支援策として一歩前進で歓迎すべきではあるが十分ではなく決定に至る経過報告が委員会になかったのは残念である」という共通した意見が出された。

建設委員会

九月定例会で継続審査となっていた平成十三年度の特別会計四件について閉会中に審査を行い「都市開発資金事業特別会計」と「土地取得事業特別会計」は、起債償還が国庫補助になるが、そのためには予定されている年度内に事業を完成させなければならない制約があり、予定通りの事業完了のための執行部の努力を求め、四件とも全員が認定することに賛成しました。

今定例会で付託を受けたのは、特別会計の補正予算など九議案でした。委員会の審査の結果、全員がすべての議案について賛成しました。

なお市内には、行き止まりの未認定道路がかなり残されており、これを積極的に調査し、市道として認定するとともに狭隘な道路については必要な幅員を確保するよう

努力し、住民の安全と利便性向上のための努力を求めました。

決算審査特別委員会

九月議会で付託された「平成十三年度一般会計歳入歳出決算認定」について議会閉会中に四日間 にわたり慎重に審査を行った。実質収支は、四億千六百五十万五千円の黒字決算となり、健全基調を堅持している。

決算全般にわたり交付税や税収などの減少にもかかわらず経費節減に努力され、おおむね的確なる財政運営がなされているが、交際費の特定宗教などに対する支出、同和特別対策費の不適切な支出、指名入札の公平性について、入札ミスによる責任の明確性と再発防止、監査体制強化・不納欠損の改善などについて論議がなされた。採決の結果、賛成四名、反対五名の賛成少数で不認定になった。



決算審査特別委員会